

# 「勤労者の仕事と暮らしについてのアンケート」調査結果の概要

(2008年10月実施)

## 《調査結果のポイント》

- ◆現在の日本の景気が1年前と比べて悪くなったとする者の割合、日本の景気が1年後に現在と比べて悪くなると予測する者の割合は、いずれも調査開始(2001年4月)以来最大。【図表Ⅰ-1、Ⅰ-2】
- ◆低所得層では実感としての物価上昇率が高い。【図表Ⅰ-7】
- ◆今後1年くらいの間に失業する不安を感じている者の割合は23.8%であり、前回調査(18.2%)より増加。半年で+5.6%ポイント上昇したのは過去最大。【図表Ⅰ-8】
- ◆週あたり労働時間は4人に1人が50時間以上、10人に1人が60時間以上。30～40代男性でとくに長時間労働が多い。【図表Ⅱ-1、Ⅱ-2】
- ◆長時間労働者を中心として、勤務時間外でも仕事から完全にオフにはなっていない。【図表Ⅱ-3、Ⅱ-4】
- ◆仕事や職場でのストレスが増大したとする者の割合は53.0%。長時間労働者、勤務時間外も完全にオフではない層や人手不足の職場などで特に増加。【図表Ⅱ-5、Ⅱ-6】
- ◆労働者の権利の認知度は、個人賃金年収が200万円未満の層などで低い可能性。セーフティネットの脆弱な層で権利認知が進んでいないおそれ。【図表Ⅲ-1】

※連合総研ホームページに、報告書全文を掲載しています。(http://www.rengo-soken.or.jp/)

※お問い合わせ：千葉登志雄・南雲智映

## 《調査の実施概要》

### 1. 調査目的

本調査は、勤労者に対するアンケートにより、わが国の景気動向や仕事と暮らしについての勤労者の認識を定期的に把握するとともに、勤労者の生活の改善に向けた政策的諸課題を検討するための基礎的資料を得ることを目的としている。2001年4月に第1回調査を開始して以来、毎年4月と10月に定期的に調査を実施しており、今回は第16回目の調査である。

### 2. 調査項目

- 景気・物価・仕事についての認識
  - ・景気、賃金、物価、失業に関する認識
  - ・物価上昇率の実感
- 労働時間・生活時間についての認識
  - ・労働時間(時間外労働を含む)、勤務時間外の仕事
  - ・仕事や職場でのストレス
- 労働者の権利についての認識

### 3. 調査の対象

首都圏および関西圏に居住する20代から50代までの民間企業に勤務する者

※なお、60代前半層に対しても調査を行っているが、4.に述べる理由から、本調査結果概要においては、あくまで参考として扱っている。

### 4. サンプル数および抽出方法

まず、「平成14年就業構造基本調査」の首都圏(埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)および関西圏(滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県)のそれぞれにおける20代から50代までの雇用者の性・年齢階層・雇用形態別の分布を反映したサンプル割付基準を作成する。この割付基準に基づいて、(株)インテージのモニター(全国約24万人)の中から、首都圏に居住する582名、関西圏に居住する318名の民間企業雇用者を抽出した。首都圏と関西圏のサンプル比率(約2対1)は人口規模にほぼ比例している。

なお、60代前半層に対する調査は、十分なサンプル数を確保するため、便宜上、「平成14年就業構造基本調査」の当該分布割合のほぼ4倍にあたる計200名とした。このため、平均値を求める場合にも、20代～50代と60代前半層とは別個に集計している。

### 5. 調査期間、調査方法および調査実施機関

- (1) 調査期間 2008年10月2日(木)～10月14日(火)
- (2) 調査方法 郵送自記入方式
- (3) 調査実施機関 (株)インテージに調査を委託

## 6. 回収状況、回答者の構成

(1) 回収状況 20代～50代 有効回答数785名、有効回収率87.2% (配布数900)

(参考) 60代前半 有効回答数170名、有効回収率85.0% (配布数200)

(2) 回答者の構成

(%・人)

	20代	30代	40代	50代	回答数	(構成比)	【参考】 60代前半 回答数	(構成比)
合計	24.6	26.9	22.5	26.0	785	(100.0)	170	(100.0)
男性	21.3	29.4	22.8	26.6	470	(59.9)	112	(65.9)
女性	29.5	23.2	22.2	25.1	315	(40.1)	58	(34.1)

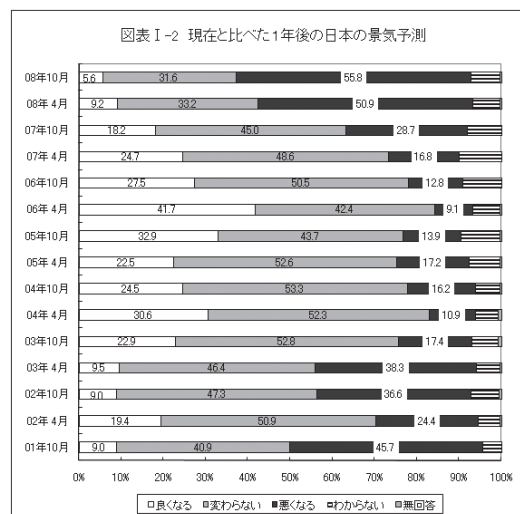
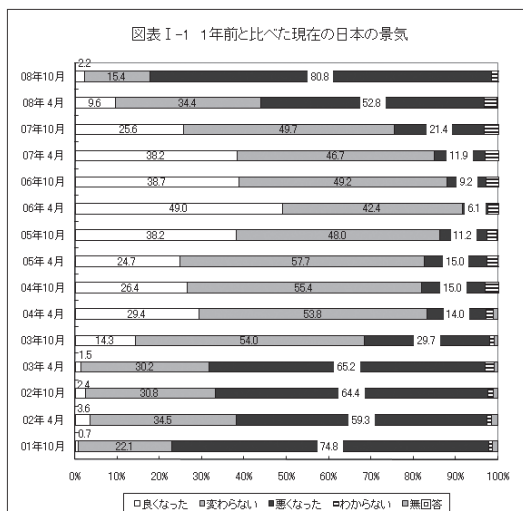
## 《調査結果の概要》

### I 景気・物価・仕事についての認識

#### ○景気の現状・見通し

—景況感は急激に悪化 「悪くなった」「悪くなる」は過去最大— (問1、2)

・現在の日本の景気は1年前と比べて悪くなったとする者の割合は80.8% (図表 I-1)、日本の景気が1年後に、現在と比べて悪くなると予測する者の割合は55.8% (図表 I-2) で、いずれも調査開始以来最大。

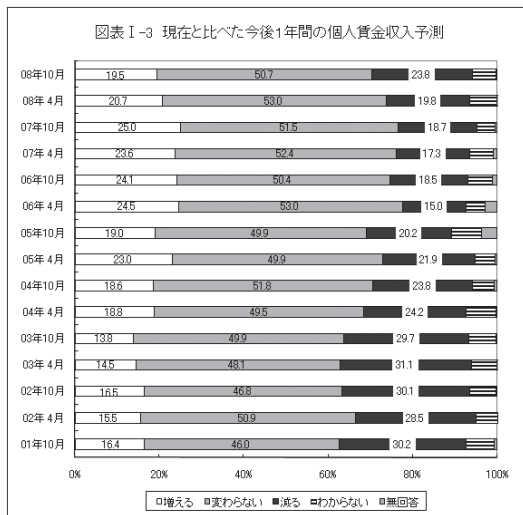


(注) <良くなった>=かなり良くなったと思う+やや良くなったと思う、<悪くなった>=かなり悪くなったと思う+やや悪くなったと思う <良くなる>=かなり良くなると思う+やや良くなると思う、<悪くなる>=かなり悪くなると思う+やや悪くなると思う

#### ○個人の賃金収入の見通し

—個人賃金収入は減少の兆し— (問10)

・今後1年間に賃金収入が現在と比べて増えると思うか否か聞いたところ、「減る」とする者の割合は23.8% (図表 I-3)。「減る」が「増える」を上回るのは、2005年10月調査以来3年ぶり。

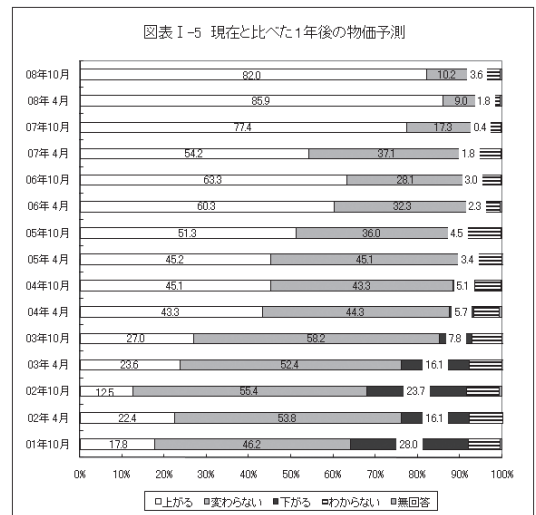
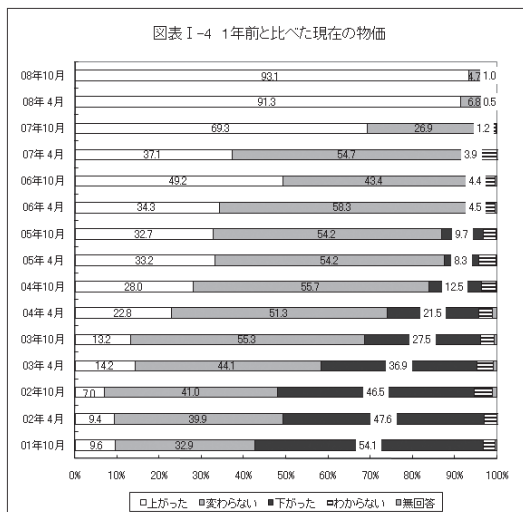


(注) <増える> = かなり増えると思う + やや増えると思う、  
<減る> = かなり減ると思う + やや減ると思う

○物価の現状・見通し

- 1年前と比べた物価の現状認識は「上昇」が過去最大
- (問15、16)

・ 1年前に比べて現在の物価が上がったとする者の割合は93.1%、現在と比べて1年後は物価が上がるとする者の割合は82.0%と、いずれも前回調査同様の高い値(図表 I-4、I-5)。特に前者については過去最大。

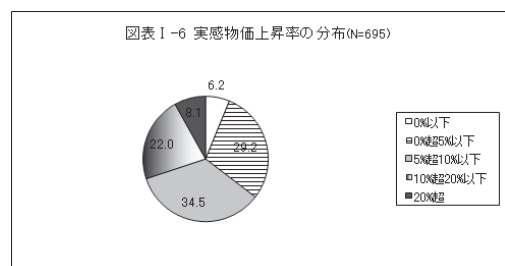


(注) <上がった> = かなり上がったと思う + やや上がったと思う、<下がった> = かなり下がったと思う + やや下がったと思う <上がる> = かなり上がると思う + やや上がると思う、<下がる> = かなり下がると思う + やや下がると思う

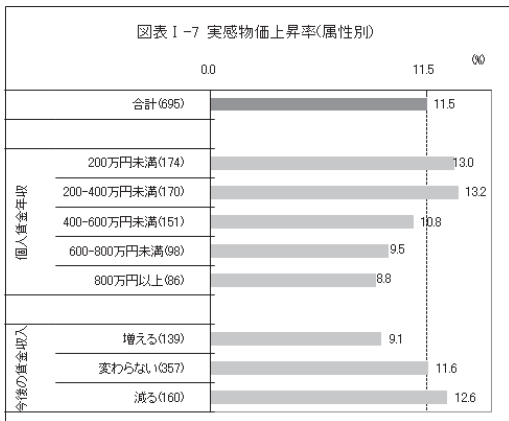
○実感物価上昇率

- 実感としての物価上昇率は平均で11.5% 低所得層や今後の賃金減少を予想する層で高い値— (問17)

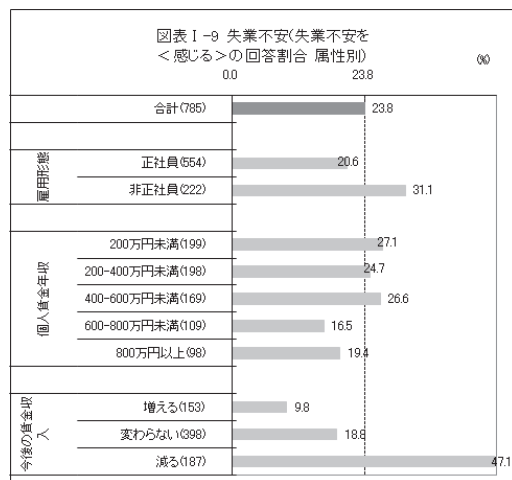
・ 1年前に比べて物価が何%くらい上がった(下がった)と思うか(以下「実感物価上昇率」という。)をたずねたところ、平均では11.5%の上昇。「5%超10%以下」の上昇とする者の回答割合が最も高い(図表 I-6)。  
・ 特に個人賃金年収が400万円未満の層や、今後1年間の賃金収入が現在と比べて減ると予測する層において、実感物価上昇率が高い(図表 I-7)。



(注) 無回答を除いて算出



(注1) ( )内は各グループの人数(N)を表す。  
 (注2) 無回答を除いて算出  
 (注3) 「200万円未満」において、「賃金収入はない」とする者は除外



(注) ( )内は各グループの人数(N)を表す。

### ○失業不安

—失業不安を感じる者の割合は急増 非正社員、低所得層や今後賃金の減少を予想する層で高い値— (問8)

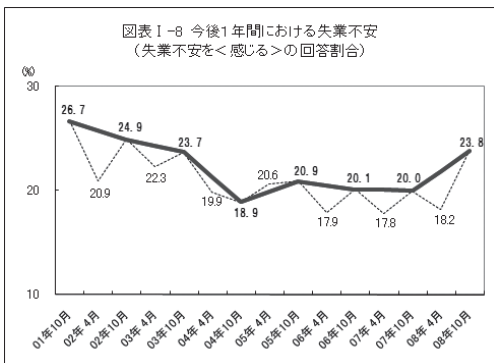
- ・今後1年くらいの間に失業する不安を23.8%の者が感じており、前回調査(2008年4月)の18.2%より急増(図表I-8)。2001年時とほぼ同じ水準となっており、雇用情勢の先行きが懸念される。
- ・特に、非正社員(31.1%)、個人賃金年収が200万円未満である層(27.1%)、今後1年間に賃金収入が現状と比べて減ると予想している層(47.1%)などで、失業不安を感じる割合が高い(図表I-9)。セーフティネットの弱い層で失業が多く発生するおそれ。

## II 労働時間・生活時間についての認識

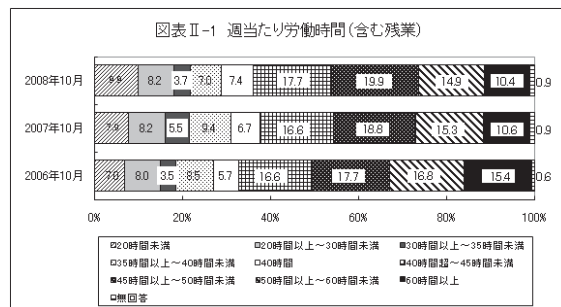
### ○適当なり労働時間の現状

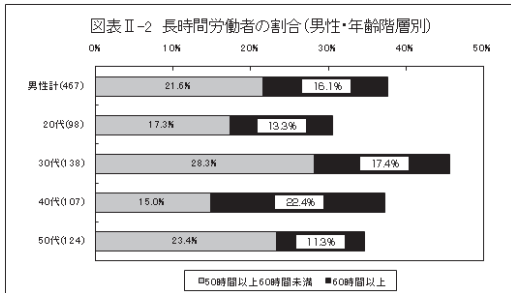
—労働時間50時間以上は4人に1人— (F5)

- ・平均的な1週間あたりの実労働時間(残業含む)は「50時間以上60時間未満」が14.9%、「60時間以上」が10.4%であった。4人に1人が週50時間以上働いている(図表II-1)。
- ・長時間労働者の割合(週50時間以上働いている割合、週60時間以上働いている割合)をみると、30~40代男性が多い。(図表II-2)

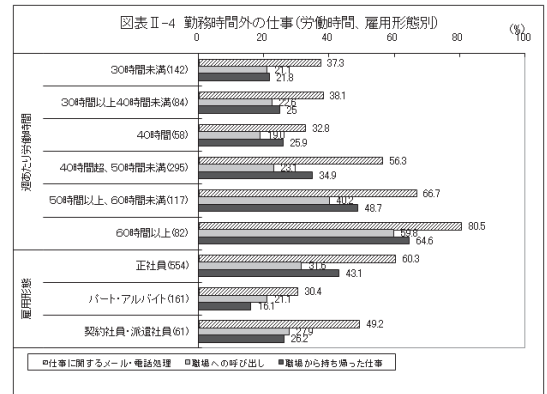


(注1) 失業不安を<感じる>=かなり感じる+やや感じる  
 (注2) 季節要因の影響を除外するため、各年の10月調査分のみを取り出した場合、実線のとおりとなる。





(注1) ( ) 内は各グループの人数(N)を表す。  
 (注2) 「無回答」を除いて算出。

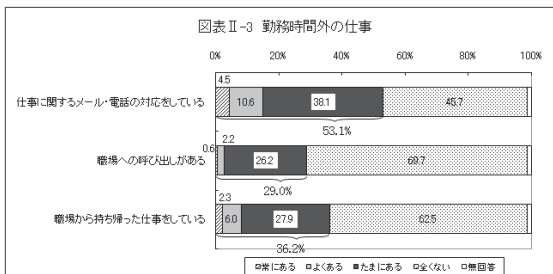


(注1) ( ) 内は各グループの人数(N)を表す。  
 (注2) 表中の割合は、「常にある」「よくある」「たまにある」の合計値。

### ○勤務時間以外の過ごし方

—長時間労働者は勤務時間外にも仕事が多い— (問36)

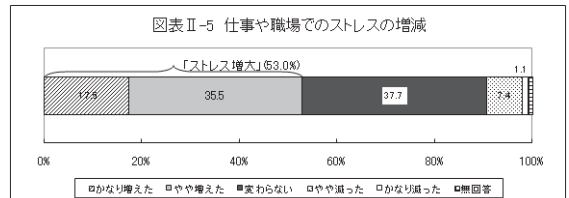
- ・休日や勤務時間でない時間帯(出勤前・出勤後など)に「仕事に関するメール・電話の対応をしている」割合は53.1%、「職場への呼び出しがある」割合は29.0%、「職場から持ち帰った仕事をしている」割合は36.2%であった。(図表II-3)
- ・また、週あたり労働時間が「60時間以上」の層では「仕事に関するメール・電話の対応をしている」割合は80.5%、「職場への呼び出しがある」割合は59.8%、「職場から持ち帰った仕事をしている」割合は64.6%と高い水準にあった。長時間労働者を中心に、勤務時間以外でも仕事から完全にオフにはなっていない状況が表れている。(図表II-4)

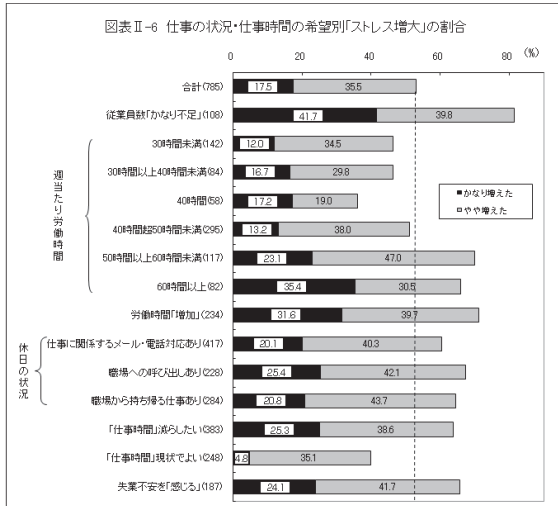


### ○仕事や職場でのストレス

—過半数がストレス増大— (問30)

- ・1年前と比較して、仕事や職場でのストレスが「かなり増えた」「やや増えた」と回答した割合の合計(以下「ストレス増大」とする)は53.0%と過半数にのぼる。これに対して「やや減った」「かなり減った」を合計しても8.5%にとどまる。(図表II-5)
- ・長時間労働者、労働時間増加者や労働時間減少希望者、勤務時間外も完全なオフではない層でストレス増大を訴える割合が比較的多かった。また人手不足が起きている職場でもこの割合が高くなっている。(図表II-6)





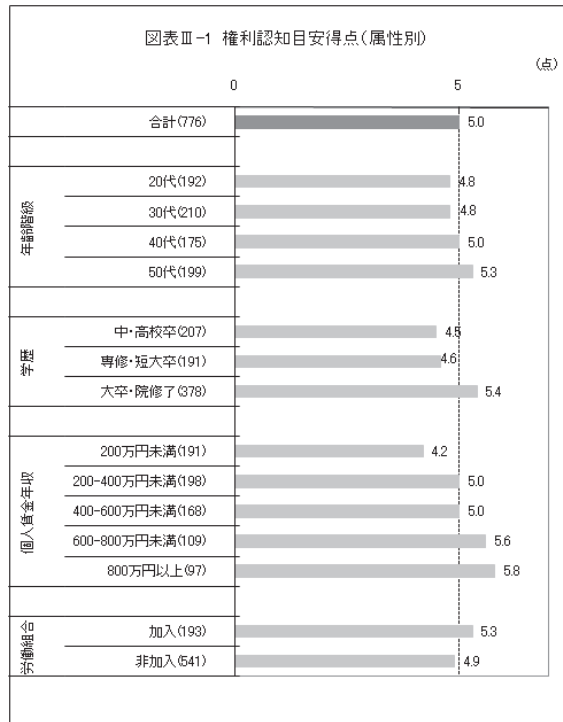
(注1) ( ) 内は各グループの人数(N)を表す。  
 (注2) 表中の「労働時間増加」は1年前と比べた実労働時間が「かなり増えた」および「やや増えた」と回答した者を合計したものである。また、「仕事に関するメール・電話対応あり」「職場への呼び出しあり」「職場から持ち帰る仕事あり」はそれぞれの状況が「常にある」「よくある」「たまにある」と回答した者を合計したものである。

### Ⅲ 労働者の権利についての認識

#### ○労働者の権利の認知状況

一・中・高校卒、低所得層や労働組合に加入していない層などで比較的低い(問37)

・法律で労働者の権利として定められていると思うものをたずね、認知状況を測る目安としてその結果を得点化したところ、中・高校卒、個人賃金年収が200万円未満の層や、労働組合に加入していない層などで比較的低い値(図表Ⅲ-1)。セーフティネットの脆弱な層で権利認知が進んでいないおそれ。



(注1) ( ) 内は各グループの人数(N)を表す。  
 (注2) 無回答を除いて算出  
 (注3) 問37では、法律で労働者の権利として定められているものを、以下の項目から選択してもらった(複数回答)。各選択肢につき正答1点、誤答0点とし、9項目を合算した得点を「権利認知目安得点」とした。

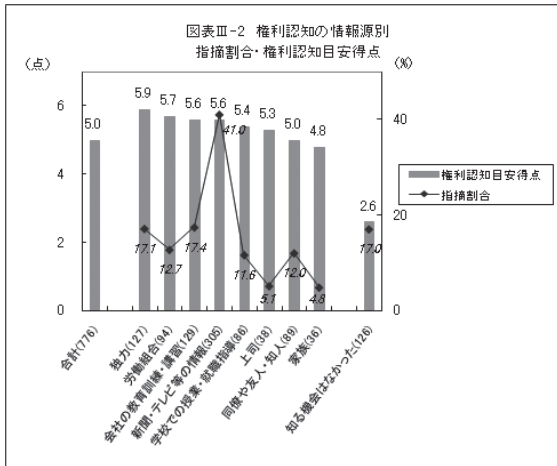
- 1 労働組合を作ること
- 2 原則子どもが1歳になるまで育児休業を取得できること
- 3 定年退職後も引き続き働けるよう要求できること
- 4 残業した場合に賃金の割増を要求できること
- 5 セクハラに対して損害賠償を請求すること
- 6 国で決められた最低賃金以上の賃金をもらえること
- 7 年間最低10日の有給休暇を要求できること
- 8 10年勤続で、5日間の連続休暇が付与されること
- 9 会社が倒産しても未払い分給与を請求できること

(注4) 「200万円未満」において、「賃金収入はない」とする者は除外  
 [参考] 60代前半：5.0点

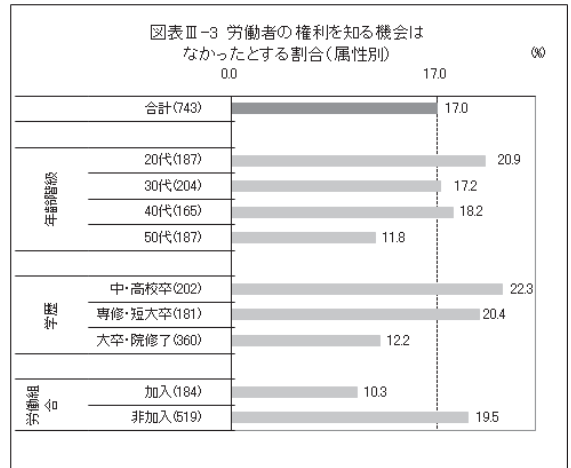
○労働者の権利の情報源

—「新聞・テレビ等の情報」が最も多い情報源 権利認知機会がなかったとする層は、20代、中・高校卒や労働組合に加入していない者が多い—（問38）

・労働者の権利に関わる知識の情報源としては、新聞・テレビ等の情報から得たとする者が最も多く、会社の教育訓練・講習がこれに次ぐ（図表Ⅲ-2）。  
 ・特に権利認知得点が低い、「知る機会はなかった」とする者は、20代、中・高校卒、労働組合に加入していない層などで多い（図表Ⅲ-3）。権利認知の必要性の高い、セーフティネットの脆弱な層で「知る機会」に乏しい可能性。



- (注1) ( ) 内は、権利認知目安得点算出における各グループの人数 (N) を表す。
- (注2) 「指摘割合」とは、問38の個々の選択肢に関して、主な情報源として挙げた者が全体 (743人) に占める割合を表す (無回答を除いて算出)。
- (注3) 問38は、主な情報源として2つまでの回答を求めている。
- (注4) 右目盛り：指摘割合、左目盛り：権利認知目安得点



- (注1) ( ) 内は各グループの人数 (N) を表す。
- (注2) 無回答を除いて算出
- [参考] 60代前半：8.9%